

分がございまして、非常にそういった意味では大きな市と違って、やはりコンパクトな市だということの中においては、やはり職員全員でそういった財政の硬直の部分だとか、やはり財政の在り方というのは、かなりトータル的に分かる部分があるのではないかなということで、そういった部署を持たないでも私は緊張を持って取り組んでまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

新年度予算編成、よろしく願いいたします。

これで終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

担当入替えのため11時30分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時23分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市の関係人口増加の狙いについて。

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指します。

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面していますが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されています（総務省関係人口ポータルサイトより）。

(1) 人口減少における「地域づくりの担い手」について、糸魚川市の考えを伺います。

(2) 「いといがわ・クリエイティブ・シップ」登録人材募集の狙いを伺います。

(3) 関係人口増加が、行く行くどのような影響を及ぼすと糸魚川市はお考えか伺います。

2、ウィズコロナから脱コロナへ。糸魚川市の考えについて。

2020年2月半ば頃から「コロナ禍」という言葉がインターネットや新聞紙面で取り上げられるようになり、現在もその状況は続いております。日頃、国民が手洗いや手指消毒、マスクの着用、3密の回避など新しい生活様式を実践しているとはいえ、感染の波は抑え切れず、新型コロナウイルスの第3波が到来しました。糸魚川市においても、いつその波が押し寄せるか分からず、見えない不安やストレスと闘っています。

新型コロナウイルスの感染拡大と医療崩壊を防ぐこと。地域経済の循環を止めないこと。コロナ禍におけるアクセルとブレーキ。これらを両立しようとするジレンマについて、糸魚川市の考えを伺います。

- (1) 感染の不安を持ち込まないために、発熱などの症状が出ていない方に対するPCR検査や抗原検査実施について、糸魚川市の考えを伺います。
- (2) 危険と隣り合わせである市内の医療従事者や関係者が、少しでも安心して仕事に従事していただくための対策は。医療従事者やそのご家族、関係者の中の希望者に、定期的にPCR検査や抗原検査を行うことは有効であるとお考えか、伺います。
- (3) 感染拡大や医療崩壊の阻止、地域経済の循環を止めないための最善の手段は、市民の皆様への3密回避などの社会規範に頼ることが大半であるとお考えか、糸魚川市はどのようにお考えか伺います。
- (4) 新型コロナウイルス感染症に関する人権への配慮について、糸魚川市の取組を伺います。

3、令和3年度の市政運営について。

新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）は、100年に1度の公衆衛生危機であり、今後何十年にもわたり影響を及ぼすであろうと、2020年7月、世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長は考えを示しました。しかしながら、世界的大流行であろうとも、我々市民は常に前を向き、この苦境を乗り越えなければなりません。

糸魚川市民の皆様は、未来を見据え「希望の持てる市政」を望んでいると考えます。企業の皆様においては、歯を食いしばり、この難局を乗り越えようと日々ご努力されています。現実には、糸魚川市よりお力添えを頂いたことも明日の活力につながっております。

令和3年第1回定例会に向けて予算編成が始まっていますが、令和3年度予算編成は、言わば脱コロナの未来を見据えた希望の持てるものであってほしいと願いますし、より明確なビジョンを示してほしいと考えます。そして、令和3年度が市民生活やモチベーションを向上させるための大切な1年であることを市民の皆様にお示しすることが、現市政と議会の責任であると考えます。

- (1) 新型コロナウイルス感染症のワクチンは、現段階で実用化されていませんが、厚生労働省は2020年度内の接種開始を目指しています。それまでの間、コロナ対策に限らず、市民の皆様が未来に希望の持てる取組を糸魚川市はお考えか、伺います。
- (2) 駅北まちづくり戦略における「民間主導・行政並走」のまちづくりの概念は、糸魚川市全域に言える考え方であるか伺います。
- (3) 糸魚川市における企業の人材不足について、どのようにお考えか伺います。
- (4) 公民連携の持続性を担保するために、市は市役所外部の様々な主体と連携・協力し、双方のメリットを共有していかなくてはならないと考えますが、糸魚川市の考えを伺います。
- (5) 30年先も持続可能なまちの実現に向け、令和3年度に強化していく取組をお伺いします。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川暮らしの情報発信や移住体験ツアーの取組等を通じて、当市に関心を持っていただいた人から地域づくりの担い手として活躍いただくことを期待いたしておるところでございます。

2点目につきましては、創作活動や創造活動を行う市内の方と市外の方が交流・連携・共有することを狙いといたしております。

3点目につきましては、市と関わりを持つ方を増やすことで市内に新たな価値観が生まれ、地域振興や産業振興から緩やかな移住につながっていくものと考えております。

2番目の1点目につきましては、県で行う行政検査以外については一定の条件に該当する希望の検査を行うことで、市内での感染拡大やクラスターの未然防止に役立つものと考えております。

2点目につきましては、日々の健康観察、検温やマスクの着用、診察前後の消毒などが重要であるとと考えております。

3点目につきましては、感染拡大を防ぐためにマスクの着用やソーシャルディスタンスの確保など、新しい生活様式を実践していく必要があると考えており、引き続き広報やホームページ等で周知をまいります。

4点目につきましては、感染が確認された方への差別的な行動や誹謗中傷することなく、冷静な行動をお願いいたしており、今後も継続して呼びかけてまいります。

3番目の1点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の今後の状況によりませんが、国が提唱する新しい生活様式やアフターコロナの新たな時代に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

2点目につきましては、まちづくりの主役は、あくまでも市民であると考えており、駅北エリアだけではなく、市全域において官民が連携した協働のまちづくりは必要であると捉えております。

3点目につきましては、今後も人口減少が進む状況から、新たな労働力の確保と合わせて企業の生産性の向上が必要であると考えております。

4点目につきましては、今後も民間の皆様と連携・協力を図りながら、様々な取組を進めていく必要があると考えております。

5点目につきましては、新型コロナウイルス感染症への対応が第一と考えていますが、アフターコロナを見据え、取組を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

それでは、2回目の質問をさせていただきたいと思います。項目、順番変えて2番目のウィズコロナから脱コロナへという項目から質問させていただきたいと思います。

（1）の発熱などの症状が出ていない方に対するPCR検査や抗原検査実施について、糸魚川市の考えということで再質問させていただきます。

今回の補正予算に、10月7日に議会により要望させていただいた検査費用に関する補助を計上していただきました。ありがとうございました。希望者全てに検査の補助を行うものではなくとも、医療関係者や仕事に従事する上で安心して仕事に取り組めることと思っております。

先般、長岡市で医療機関の事務に従事されている方からのコメントを頂いたのですが、PCR検査は疑陰性や疑陽性もあり、キャリア、イコール罹患者とはならないので、希望者全ての人に実施するのは極めて不経済なことから、健康保険適用範囲等を照らして実施している。医療従事者で無症状の方に対する検査、イコール安心と思う人は、ほんの僅かであると思うとのコメントを頂きました。

ここから質問になりますが、間もなくワクチンも流通すると思いますが、それでもまだまだ時間がかかることと思いますので、その間、PCR検査や抗原検査に対する考え方を、いま一度糸魚川市民の皆様へ広くお知らせいただきたい。そのように考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

議員おっしゃったとおり新型コロナの検査につきましては、仮に結果が陰性であったとしても、これは感染していないということを証明するわけではありません。あくまでも採取した検体にウイルスがあったのか、なかったのか、それを判定するものであります。また、陰性の結果が出ましても、その後、感染が確認されたり、感染していないのに陽性反応が出たり、その検査というのは万能ではありません。

したがいまして、無制限に検査を実施するよりも検温等の健康観察でありますとか、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保など、新しい生活様式を実践していただくことが一番大事だと思っております。こういうことについても、もう少し市民の皆さんにも広く伝わるようにPRしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

糸魚川市のホームページにもリンクが貼られておるんですけども、諏訪中央病院の玉井さんの出していた記事で、新型コロナウイルスを乗り越えるための説明書、これ大変分かりやすい資料だなというふうに感心いたしましたんですが、そういった資料をご活用しながら周知、広げていただきたいと思います。もちろん市で独自でつくっていただいたのもしっかりと分かりやすいものであります。よろしく願いいたします。

それでは、(2)番の定期的にPCR検査や抗原検査を行うことは有効であるかという質問でございます。再質問させていただきます。

現在、テレビやインターネットの報道でもよく耳にするのが、PCR検査で最短40分で結果が出て、1,980円という安価で検査が行えるという事例がありますが、利用者の心理としては、その検査を受けることで、その場だけでも感染していないということを担保したいと考えていると思います。ちまたで感染拡大しているときに検査費用が底値に使いこの価格設定は、言わば今後のワクチン流通を見越した価格設定で、複数回受けられるというユーザーの安心を優先させていると考えます。

那須塩原市に関しては、同居の家族に限り複数回の検体を混ぜて、一度に検査するプール方式にすることで、検査回数を減らし、価格を抑えるという方法を取り、市独自の補助と合わせ、負担額1人1,000円のPCR検査の実現を目指していると報道がありました。

ここから質問になります。

せめて医療従事者、そのご家族、関係者、基礎疾患をお持ちの方の希望者に検査を実施することはできないか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

先ほどの答弁の繰り返しになりますけども、検査につきましては、採取した検体にウイルスがあるかどうか、それを判定するもので、感染しているかどうかを担保するものではありません。また、疑陽性だとか疑陰性も一定の割合で発生をしております。

したがって、全ての希望者に実施するというのは、合理的ではないというふうに今現在は考えております。

検査に当たりましては、糸魚川総合病院とも協議をしまして、内容の組立てを行っているところであります。頻繁に検査を行うよりも、先ほど言いました基本的な行動が、最も大事であるということでもあります。これに基づいて本議会におきまして、検査費用の助成を提案させていただいたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

12月6日の東京新聞デジタル版からの抜粋になりますが、PCR検査を断られ病死。喘息男性、死後に陽性判明。亡くなったのは、金沢大学薬学系准教授の高橋さんという方です。

43歳の妻や知人の話では、高橋さんの自宅は県外にあり、金沢市内に単身赴任していました。11月16日に強い倦怠感があり、自宅療養中の20日には39度台の発熱がありました。21日に医療機関を受診したところ、インフルエンザの検査では陰性で、薬を処方されました。本人は、近くの医院と話していたといいます。妻や知人のとのメールの記録によると、高橋さんは、21日、石川県発熱患者等受診相談センターに電話して、PCR検査を受けたいとお伝えしたそうですが、

かかりつけ医の判断がなければ検査は受けられないと告げられたといいます。通院後、熱は37度台に下がったのですが、咳や喉の痛みが出たため3連休明けの24日に、同じ医療機関を再受診しました。25日朝、妻がチャットでメッセージを送ったが、返信がなかったため知人を通じて、金沢大に連絡、26日に職員が自宅を訪れると、既に死亡していたと記事にはありました。

私の質問の、4番目の質問の人権の配慮にもつながる質問となってきますが、この中のポイントは、高橋さんは基礎疾患を患っていた。単身赴任でその市町村の市民ではない。再受診していながらコロナウイルスの感染を見抜けていない近くの医院。結果、近くの医院内で濃厚接触者を増やしている可能性があるということ。かかりつけ医の判断がなければ、検査を受けられないという相談センターの対応。今ポイントを挙げましたが、このようなケースがあった場合、糸魚川市はどのような初期対応が好ましいと考えられますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今ほどご紹介いただきましたケースについては、詳細は承知をしておりますけれども、通常であれば診察の上、PCR検査を行うんでないかなというふうに聞かせていただいております。

国では、検査については広範囲に実施するよという通知をしております。疑わしい場合には、PCR検査を実施する取扱いになっているものというふうに考えております。市民であってもなくても、発熱だとか倦怠感があって、そういう症状があれば、ぜひためらわずにかかりつけ医、または新型コロナ受診相談センターに相談をしていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今申し上げたポイントの中に、かかりつけ医の判断がなければ検査を受けられないという相談センターの反応、それは恐らくそこに在住の市民でないという理由があるかと思うんですけども、こういったケース、糸魚川市でも考えられると思うんですが、そういった場合、糸魚川市はどういう対応を考えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

受診相談センターのほうへ、まず電話を、かかりつけ医が恐らくありませんので、連絡をされると思います。もしくは健康増進課のほうへ連絡を頂くケースもあるかと思えます。そういう方については、受診していただくお医者さんを調整をしながらご案内をしております。実際、市民の方でない方についても、受診もしくは検査を実施しておりますので、そういう方については、繰り返しになりますが、ためらわず関係機関のほうへご連絡を頂きたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

糸魚川市にもそういった方いらっしゃると思いますし、いつそういった方が感染の症状になってしまうか分かりませんので、窓口においては適切な対応をしていただきたい、このように思います。

続きまして、3番目の市民の皆様への3密回避など、社会規範に頼ることという、この項目の質問、再質問させていただきます。

現段階、ワクチンも流通しておらず、感染拡大を防ぐため、行動に制約がかかってしまうことは仕方ないと考えますが、コロナ禍の状況でも生活を維持していくため、それぞれに経営を続けなければならないジレンマに苦しむ実態があります。支えてくれるのはお客様、こんなに地域経済の循環が大切であると実感した年はありません。今後も糸魚川市民の皆様で支え合い、助け合いができたらと考えております。ご尽力いただいているという大前提で、再三のお願いとなりますが、糸魚川市におかれましても変わらぬお力添えを続けていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、この影響をタイムリーに受けるのが、飲食店ですとか観光業の皆さんであるというふうに思っております。現在、それぞれの創意工夫の中で事業活動を継続されているということであるというふうに思っております。

また、市内でも営業時間を変更したり、フェアを開催したり、休みの日にお店を開けたりということで、いろんな対策を取られている企業も承知しておりますので、今後とも市民ですとか市内の事業者の皆さんに寄り添いながら、その時々状況に応じて対策を取ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、4番目の人権への配慮について再質問させていただきたいと思ひます。

これから、糸魚川市内においても感染についてのいろいろな状況が想定されると考えますが、3月には公立高校の受験が控えております。受験生を持つ家族が、いつ感染し、受験生に感染させてしまうか分かりません。こうした状況を踏まえ、受験生が新型コロナウイルスの感染によって、本来受験したい高校を受験することができない状況になった場合、市や県はどのような対応を考えられておりますか伺ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

高校入試につきましては、文部科学省から通知が発出されておまして、試験会場等では、感染症対策を講じるとともに、入学志願者が感染または、その疑いがあることによって受験できなくなってしまった場合に備えて、追試験等による受験機会の確保に努めること。また、安心して受験に臨めるような環境を整えることが必要という内容となっております。

県立高校の場合は、入学試験実施者である県の教育委員会が、この通知等を踏まえて、試験を実施されるものと思っておりますけれども、県教育委員会ですとか会場となります高校から、市に相談や要請があった場合には、関係機関などと連携しながら、対応していきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

実は私、受験生の息子がいまして、中学校のほうから通知を頂いております、本試験の2週間後にそういった、例えば感染を受けてしまったために予備日を設けているようです。例年インフルエンザの対応もそのような対応をしておりますが、そういった中でもかかってしまったことによる人権の侵害というのは、すごく心配される要素でございますので、各学校においてそういった対応を強化されていると思いますが、重ねて強化のお願いをしたいと思っております。よろしくお願ひします。

続きまして、1番目の関係人口について、質問させていただきたいと思ひます。

人口減少における地域づくりの担い手について、糸魚川市の考えを再度担当課のほうからご答弁いただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

地域づくりの担い手という確保は、非常に苦戦をしているわけでありまして。いろんな分野に及んでと思ひます。そういった中で、今総務省が出しております地域おこし協力隊ですとか、あと移住定住とか、やっぱり糸魚川市の魅力を伝えながら、できれば若い世代にぜひお越しいただきたい。こちらに住んでいただきたい。活躍していただきたい。そんな形で地域づくりに参画していただければ非常にいいというふうに思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

糸魚川市において、地域の方々は、地域に変化を生み出す人材を必要としていられるとお考えでしょうか。そのようなニーズがあると捉えているのか、糸魚川市の考えを伺いたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

市内全域もいろいろ地域の特徴があります。市街地の部分もあれば中山間地域、山間地の部分もあります。やはり今、地域へ私どもが出向いてる中で、やっぱり山間地域の皆さんというのは、非常にやっぱり担い手の確保というのに一生懸命です。それで、地元のほうでも自治振興会組織の中での地域づくりプランというはあるんですが、その中でも外部の方を今移住者という形ですかね、何とかお越しいただきたいという受入れ体制をつくって、積極的に情報の発信にも出ていったり、受入れをしっかりとやっているという地区もありますので、そういった地区も今後もっと増えていただければいいんですけども。地方創生が始まって以来、そういった動きが非常に大きくなってきているという、今感じであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

地域に変化を生み出す人材は、地方にどのような価値を見出して、地方に移住されてくるとお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

いろいろ移住の相談ですとか窓口へお越しいただく方の、総合的に判断しますと、やはり糸魚川というのは、自然が豊かでゆっくりしてるなという、そういったライフスタイルに憧れる方、それからあと、建物でも、特に古民家みたいな田舎暮らしを好まれる。それとか、あと野菜とか米作りだとか、都会の生活とはちょっと異なる非日常的な体験、それからアウトドアスポーツ、そういったところは非常に地方の価値観として見てるなというふうに思っております。

○議長（中村 実君）

東野議員の質問の途中でありますが、昼食時限のため13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

地域づくりの担い手の再質問、続けさせていただきたいと思います。

地域おこし協力隊は、地方においていただいて、おおむね1年以上、3年以下の期間、地方自治体の委嘱を受け、地域で生活し、各種の地域協力活動を行っていただくわけですが、地方に来ていただいたとき持っていた希望と、現実のギャップが必ずあると思います。地方自治体が手を尽くしても、定住につなげていくことは相当難しいと考えています。

総務省は、この隊員数を令和6年度に8,000人に増やすという目標を掲げておりますが、3年以下の移住期間で、次の就職先となり得る地域産業との関わりも重要と考えますが、糸魚川市においてはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員のご指摘のところが一番肝腎なのかなというふうに考えております。まずは、定着していただくために、それから地域の力になっていただくために、まず募集の段階が一番大事だと思うんですね。やっぱり糸魚川市としてもしっかりとした目的、ミッションといいたまうでしょうか、何をやっていただきたいのか、どういう活動をしていただきたいのか。そのための定着は、どういったものがあるのか。そこら辺を踏まえた前段階、募集する段階の協議、募集するときの内容・目的、それからその後の話、そこら辺をしっかりとる中で、今は取り組んでいるところであります。1年から3年は、行政の職員として頑張ってもらいますが、その3年間の中に1年目、2年目、3年目でいろんな仕事のパターン、まずは1年目は、がむしゃらに糸魚川市を知っていただくという取組、2年目以降は、少しずつ今度、自分の自立に向けた時間を取れるような工夫。そういった協力隊の仕事の割り振りをしていかなきゃいけないと思います。やっぱり一番最初の募集の段階。いきなり応募して云々ではなくて、渡辺議員のご質問にもありましたようにお試し移住的なところで、短期間、中期間、長期期間でも構わない。よく見ていただいて、最終に決断して、そこがきちっと定着をしていただける条件ではないかなというように思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

募集の段階が大事、そのように取り組んでいただけていいことだと思いますので、お願いしたいと思います。時にいろんな人との接触で、やっぱりここにいたいなという気持ちにもつながっていくと思いますし、また、そういった関わりが強くなっていけば、一人でも多くの定住につながっていくと思いますので、対応のほうお願いしたいと思います。

続きまして、2番目のいといがわ・クリエイティブ・シップ登録人材の募集の狙いについて伺いたいと思います。

再質問になりますが、市のホームページ、人口減対策の、いといがわ・クリエイティブ・シップの登録人材募集のホームページのその他の項目に、連携される事業所のリンクが貼られておりますが、その中からの抜粋で、これまでの実績を生かし、今後も糸魚川市と連携しながらクリエイティブを起点とした共創コミュニティを活性化させ、関係人口の創出を促すとともに4,200人(2020年10月5日時点)を超えるフリーランス・パラレルワーカーといったTeam leader(チームランサー)会員の糸魚川市でのワーケーション実施に向け、情報発信をサポートしていきますとありますが、これまでの実績というものが、関係人口を受け入れる受皿となり、これからの基盤となっていくと考えてよろしいのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長(渡辺孝志君)

やはり関係人口の関係を築くというのは、糸魚川市外の方と交流が非常に大事だと思います。首都圏に向けて、やっぱり人材を求めてつながりを大事にしていくという形で考えております。これまでの首都圏とのディギングツアーですとか、そういった取組をする中で、いかに人とのつながりをつくっていくのか。そういったところを中心に、引き続き議員の言われた方向へ進んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

東野議員。

○2番(東野恭行君)

これまでのつながりというのが、もう基盤をつくり始めてるという解釈でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長(渡辺孝志君)

お答えします。

既にもう2年ほど前から、この首都圏とのつながりという形でやっておりますので、基盤は始めているというところであります。今後さらに進化をさせていかなければいけないということで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長(中村 実君)

東野議員。

○2番(東野恭行君)

ちなみにいといがわ・クリエイティブ・シップの登録人材募集が、10月から始まったかと思うんですけども、今現在どれぐらい登録があるか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

募集のほうは、おしらせばんになります、11月25日、皆さんにご案内をさせていただいております。今日現在ですが、5名の方が登録されておりますので、今後もっと数が増えるように積極的に情報の発信、進めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

こういったフリーランス・パラレルワーカーという方の登録と地域の方の登録、双方で登録を募集しているという解釈でよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今5人の登録があるというふうに申し上げましたが、申し訳ありません。今、市内と外のちょっと内訳、今資料持ってなくてお答えできないんですけども、市外の方もこの中には含まれているというふうに、市外の方も申込みを頂いているというところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。

続きまして、3番目、どのような影響を及ぼしていくのか、関係人口がどのような影響を及ぼしていくのかというところで再質問させていただきます。

行政、運営者側の関係人口を増やすという目的と、いといがわ・クリエイティブ・シップに登録していただく方々の目的、登録する動機は一致するとお考えか伺いたいと思います。登録して関わりを持つ際に、クリエイティブ人材による情報発信、実績共有、仕事の相談、受発注といったジョブ創出といった経済的仕組みがあればこそ、長続きするのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まずはやっぱり交流から始まって、いろんなやっぱり首都圏の市外から来られる方、それから市内の事業者さんとのつながりというのをつくっていくのが、この目的の一つであるというふうに思います。そういった中で、市内の事業者がちょっと不足している力を借りる。逆に市外の方が、地方のよさというのを体感していただく。やっぱりお互いにウィン・ウインの関係にならなければ、なかなか長続きはしていかないというふうに考えております。こういった取組を進める中で、人材を多くする。いろんな人たちが活躍をしていただく。そういったところが、地域の新しい価値を生んで、経済的な力もつけていきたい。ぜひそういった方向に進んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

この取組については、元気でクリエイティブな糸魚川を創出するための大切な取組になると考えております。どんなプロジェクトチームが組成させるかご期待申し上げますし、いずれ私もプレーヤーとなり、関わらせていただきたく思っております。よろしく申し上げます。

続きまして、3番目の令和3年度の市政運営について（1）番、再質問させていただきたいと思っております。

希望の持てる取組についての再質問になりますが、コロナ禍の経済的影響は長期的なものになると考えます。新年度は、市内企業の仕事に対する意欲の向上、企業各位が新たな価値の創出について取り組めるような経済対策の強化が必要であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでもお話をさせていただいておりますように市内の経済、地域内での経済循環が起こることが理想でありますので、それらが確保できますように、引き続きその時々々の情勢に対応して経済対策を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

申し訳ありません。先ほどクリエイティブ・シップのところ、登録5名の内訳が、申し訳ありません、私、お答えできませんでした。今、市内の方が4人、それから市外の方がお一人と、計5人という内訳になっております。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

大嶋課長、ありがとうございました。

続きまして、角度を変えて質問させていただきたいと思います。

来年のゴールデンウィークこそ、糸魚川市において成人式が無事開催されることを祈るところですが、青森県のむつ市の取組をご紹介しますと、令和3年1月の成人式に出席される成人者にPCR検査の検査キットを郵送することを、12月11日の決議をもって順次送付が始まりました。先ほどPCR検査に関して糸魚川市の考え方を伺いましたが、こちらのよしあしは別として、取組自体は本当市民本位、出身者本位であり、私自身、むつ市の心意気に感銘を受けたことは確かでございます。

糸魚川市においては、来年度の成人式開催についてどのようにお考えでしょうか。成人者にとっては、一生に一度しかない成人式であります。本年6月には、大学生等に応援品を送っていただいた心意気は、市内大学生等をお持ちのご父兄から大変評価が高いものであったと考えております。どうしたら成人式の開催が可能であるか、現段階の糸魚川市のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

今後、所管課であります生涯学習課で実行委員会を立ち上げて、詳細を検討していくことになりうかと思えます。その際に、今ほどのご意見のありました点も踏まえながら検討するようにしたいというふうに考えます。

現時点での対応ですけれども、感染症対策を十分に講じつつも時間短縮等にも配慮して、例年どおり5月に式典を開催する予定としております。また、当日参加できないという新成人もおられるかと思えますので、オンラインができないか、そのような検討もしていきたいというふうに考えております。状況によりましては、延期をするかもしれませんが、今のところは中止はしないという考えで進めているところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

現段階で開催する方向というご報告を受けて、安心しているところでございます。開催に向けて頑張っていただきたいなというふうに思います。

（2）番の行政並走、民間主導のまちづくりの概念についての質問でございます。

現段階で様々なまちづくりに関連するご相談を、私自身させていただいておりますが、継続中で正確に回答が出ていないものもあります。しっかりとした回答を頂くこともそうですし、私の中で行政並走という言葉のイメージは、補助金などの金銭的な支援というよりも一緒に歩みを進めていただくために知恵や労力を費やしていただくイメージを持っております。着地点をしっかりと見据えた議論を行いたいとも考えますが、糸魚川市の今の考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

公民連携というところだと思います。やはり行政だけではなかなかできない。民間の皆様だけでもどうしても手が出せない。そういったところがあると思います。そこをうまくどうつなぎ合わせるかというところが、連携だというふうに思います。

糸魚川市としましても、やはり民間の皆さんの力をかけないと、まちづくりというのはできないというふうに思っておりますので、引き続きスタンスとしては一緒にやっていくという考えで進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

ありがとうございます。

続きまして、3番の糸魚川市の企業の人材不足についてでございますが、現段階、この人材不足について、企業側が現在取られ始めてる対応あるかと思うんですけども、ご存じでしたらお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当市では、有効求人倍率が高い状態で続いております。また、コロナ禍においても求人が求職を上回る状況であります。これらがバランスが取れるのが一番であります。今現在取れていない状況でありますので、今商工会議所を中心に産業創造プラットフォームなどにおきまして、例えば外国人材の確保ですとか、あと企業に見える化によりまして技術者から来ていただくとか、例えば高齢者の活用ですとか、今自宅におられる女性の皆さんから社会に出ていただくとか、様々な活用に向けて取り組んでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

続いて（4）番について再質問させていただきます。

先般、地域のある団体に新たに所属させていただき、先日、入会の歓迎会を開催していただきました。その会は、ボランティアシップにのっとり、地域でも大変ご活躍の会であると思います。

実は、その会に糸魚川市役所にお勤めの方も先般の入会式の歓迎会に参加され、これは自費入会でされております。自己紹介をされたときに、私は市役所の中でも異端児と言われておりますと冗談

交じりにおっしゃっていましたが、我々にしてみると異端児どころか大変ありがたい存在であると考えます。先日のボランティア活動にも積極的に参加されておりましたし、既にベテランの空気感があるほどでした。ここ数年で、民間と市役所の職員さんの距離感は、よい意味で随分と縮まっていると考えますが、民間の様々な主体と協働活動することで、一層距離を縮められると考えておりますし、公民連携の持続性を担保することに有効なことであると考えております。

ここから質問になりますが、民間の活力もどんどん低下しております。より一層、市役所職員さんのお力添えを頂きたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

やはり市の職員も一旦地元へ帰れば市民となります。市全般的に市の職員も地元の活動、地域の活動には積極的に参加をするようにということも出ておりますので、地域の活動、それからいろいろなPTAの活動だとか、いろいろなサークルだとかあると思います。そういったところでの活躍・活動というのはしていかなきゃいけないですし、その中でいろんな情報を集めてくる。それを生かす、そういった行政の反映というのもできると思いますので、積極的な職員の地域への参加というところは呼びかけていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

新しいものに補助をすること、新しい取組に対して補助することも大切かと思いますが、今あるものを並走しながら伸ばしていくということも大事にしていきたい、このように要望とさせていただきます。

5番目、持続可能なまちの実現に向け、令和3年度強化していく取組について再質問、最後の質問になりますが、いま一度、米田市長より令和3年度予算編成に向けた抱負をお伺いしたいと思います。

私は、公民連携や民間の空き家問題について継続して学び、取り組んでいきたいと考えております。市長の示す取組は、今後、我々議員が示す指標にもなろうかと思っておりますので、よろしく願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員もご承知のとおり、いまだかつてないコロナ禍に今いるわけでありまして、その中でいかに市民生活に対しまして、やはり基本的な安心して住んでいける環境が一番重要なわけでありまして、

それに向けて最前線で取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。

○2番（東野恭行君）

今現在、この年を本当に越せるかどうか、我々の周りでも本当に苦しい思いをして事業を継続されている方、多くいらっしゃいます。自分ごとになってしまうんですが、商店街の皆さんも本当に歯を食いしばりながら、コロナ感染に気をつけながらいろいろな催しを創意工夫で考えながら前に進めていこうと頑張っております。今ここ、しんどいときに糸魚川の市民の皆さんが一丸となってこれを乗り越える。その決意で頑張っていきたいと思えますし、市長もその思いで行政並走という言葉がありますが、一緒になって乗り越えていけたらと思っておりますので、よろしく願います。

以上、私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

担当入替えのため、13時30分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時24分 休憩〉

〈午後1時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

これから1回目の一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

1、スマートシティ事業について。

第2期地方創生では、その土地が持つ本質的な価値を見いだすことができた地方のみが、チャンスを手に入れることができると言われています。糸魚川市としては、スマートシティの事業を実施・検討する必要があると思います。